

日本鉱物科学会 平成23年度 第2回定例評議員会議事録

日時：平成24年5月24日（木）18：15～20：30

会場：幕張メッセ 国際会議場 202

出席者

評議員会メンバー

会長：大谷栄治， 副会長：村上 隆
評議員：奥山康子， 大藤弘明， 小山内康人， 鍵 裕之，
佐藤 努， 伴 雅雄， 平島崇男， 宮島 宏，
阿部なつ江， 井上 徹， 黒澤正紀， 小暮敏博，
高澤栄一， 土谷信高， 留岡和重， 永井隆哉，
中村美千彦， 上原誠一郎， 大和田正明， 川本竜彦，
土屋範芳， 濱本拓志， 宮脇律郎， 柳澤教雄

委任状：貴治康夫， 榊原正幸， 長瀬敏郎， 森下知晃

欠席者：小澤一仁， 中牟田義博

幹事会メンバー

会長：大谷栄治
副会長：村上 隆
庶務幹事：小山内康人
会員幹事：阿部なつ江
会計幹事：中村美千彦
行事幹事：大和田正明，
和文誌編集幹事：赤坂正秀
英文誌編集幹事：榎並正樹
渉外幹事：井上 徹
広報幹事：柳澤教雄
Elements幹事：鍵 裕之
特務幹事(学振科研費担当)：土屋範芳
特務幹事(会則・内規検討担当)：土山 明
特務幹事(会員減少対策担当)：平島崇男
会計監査委員：伴 雅雄・長瀬敏郎
三鉱連絡委員：大和田正明・小山内康人
選挙管理委員会：安東淳一・片山郁夫
地球惑星科学連合2012年度学会選出プログラム委員：
角替敏昭・長瀬敏郎
地惑連合連絡担当：大谷栄治， 石渡 明， 黒澤正紀， 橘 省吾
各種委員会委員長
会長・副会長候補者推薦委員会委員長：永井隆哉
行事委員会委員長：大和田正明幹事
GKK編集委員会委員長：赤坂正秀幹事
JMPS編集委員会委員長：榎並正樹幹事
渉外委員会委員長：井上 徹幹事
広報委員会委員長：柳澤教雄幹事
Elements委員会委員長：鍵 裕之幹事
将来企画委員会委員長：村上 隆副会長
教育普及委員会 委員長：黒澤正紀
新鉱物・命名・分類委員会委員長：宮脇律郎
博物館委員会委員長：坂野靖行
2012年年会LOC委員長：平島崇男

各賞選考委員会委員長

日本鉱物科学会賞選考委員会委員長：上原誠一郎
渡邊萬次郎賞選考委員会委員長：榎並正樹
日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員長：井上 徹
日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会委員長：永井 隆哉
日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会委員長：佐藤 努
櫻井賞選考委員会委員長(代理)：宮脇律郎

会議に先立ち、会長より書記として伴雅雄会員が指名され、満場一致で承認された。

議題

I. 報告事項

1. 会員報告と入会承認（阿部会員幹事）

平成24年度第1回評議員会以降の会員動静について報告があった。物故会員4名(永年会員3名，シニア会員1名)，退会者17名(シニア会員，5名一般正会員10名，学生正会員2名)，入会者15名(一般正会員4名，学生正会員11名)，復活会員3名(一般正会員2名，シニア会員1名)，不明会員1名(学生正会員1名)であり，現時点での会員数は968名となった。賛助会員，講読会員を含む団体登録は178件，総数は1146件である。

2. 広報報告（柳澤幹事）

広報活動について以下の報告があった。

- 1) ホームページに関しては，HPのデザイン変更を行い，Niftyのサイトに完全移転した。
- 2) 会員へのML送信を29回実施した。内容は，学会事務連絡，公募案内，関連学会案内など。
- 3) 地球惑星科学連合大会開催時の鉱物科学会ブース展示対応を行った。ブースへの配置人数などについて今後検討する。
- 4) 将来企画委員会，Element編集委員会に参加した。

3. 渉外報告（井上渉外幹事）

渉外活動について以下の報告があった。

- 1) Elementsの編集作業(後記Elements報告参照)をElements委員会鍵委員長と協力して行った。
- 2) 地球惑星科学連合大会の際，鉱物科学会のブースにおいて，学会員の執筆図書展示に関する検討を行い今回，初めての試みとして実行，12冊を展示した。今回の経験・結果を基に，次回の鉱物科学会年会での展示へと繋げていきたい。

4. 和文誌(GKK)編集報告（赤坂GKK編集幹事）

GKKの編集状況について以下の報告があった。

- 1) 印刷状況：41巻3号(5月号)3論文(WEB早期公開中，本誌印刷準備中)。41巻4号(7月号)2論文(1編 WEB早期公開準備中)。現在査読中論文：6編。その内受理予定0編。
- 2) 2012年1月1日投稿論文からページチャージ制採用。ページチャージ内容はJMPSのそれに準じること。但し金額は2,500円/誌面頁。
- 3) 2011年12月1日からGKK電子ジャーナル認証化開始。期間3年で論文と引用文献，学会記事(無期限)のみ認証化する。
- 4) 特集号予定：41巻5号(9月)，6号(11月)，特集号編集委員：小澤一仁，高澤栄一，阿部なつ江，水上知行，森下知晃。仮タイトル：「マントル起源物質解説：知りたいこと，読めること，読みたいこと」16編予定
- 5) 岩石鉱物科学40巻5号(9月号)～41巻2号(3月号)の掲載件数頁数は以下の通り。原著論文3件47p，短報2件9p，総説0件0p資料・解説5件38p，新刊紹介8件5p，ニュース(他学会案内，教官公募等)2p，投稿規定6p，学会記事(評議員会・総会議事録)36p，追悼文0件0p，総目次2p，広告11件7p，白頁2p，合計頁154p，1号平均頁38.5p。

5. 英文誌(JMPS)編集報告（榎並JMPS編集幹事）

JMPSの編集状況について以下の報告があった。平成24年5月24日(木)12:30-13:30にJMPS編集委員会を開催した。

- 1) JMPSの発行状況：(JMPS106巻5号(10月号)～107巻2号(4月号)の計4号を発行した。詳細は以下の通り。原著論文11編/143p，Letters 13編/74p，その他25p，合計242p。以降の発行予定は，107巻3号

(6月号)原著論文4編 (一部早期公開準備中), 4号(8月号)未定である。

2) JMPSの編集状況(2011年9月10日以降2012年5月18日現在): 総投稿数37(昨年度同時期36)編, 年会Letter15 (昨年度14)編, 通常原稿22(昨年度22)編, うち海外投稿数15 (昨年度13)編, Web投稿37(昨年度30)編, メール投稿0(昨年度6)編。

3) 編集委員に興野 純会員が加わった。

4) J-stage3査読システムについての説明があった。

5) 2012年企画: 連合学会での発表内容をLetterとして投稿を受け付ける。

6) 編集委員会審議事項

(1) 連合のジャーナルとJMPSの関係について, 状況を見ながら対応して行く。

(2) JMPSのCitationをあげるには: 現状分析を行っている。

(3) 特集号発行の提案: 微小領域分析と岩石学 (仮題) Wallis, S.R., Dunkley, D.J. and Enami, M. (仮)。

(4) 今後の編集体制: 委員長の交代も含めて検討を進める。

6. 庶務報告 (小山内庶務幹事)

1) 評議員会に関連して, 以下17件のメールでの意見収集, 回議が行われた。

2011年 9月20日メール 運営細則, 内規など改正内容確認依頼

2011年 9月30日メール モンゴル資源地質学会会著からの文書について

2011年10月23日メール Elementsへの参加申請 (仮称)Elements委員会設置について報告

2011年11月18日メール JAMS各賞委員会委員選挙投票依頼

2011年11月25日メール 平成22年度第3回評議員会議事録(案)確認依頼

2011年12月6日メール 各賞選考委員・開票結果について

2011年12月6日メール ELEMENTS委員会内規など改正について

2011年12月16日メール 平成23年度第1回評議員会議事録(案)平成22年度総会記事(案)確認依頼

2011年12月19日メール 緊急メッセージについて

2012年 1月 6日メール 「会長・副会長候補者推薦委員会」委員選出のお願い

2012年 1月23日メール 選出結果報告「会長・副会長候補者推薦委員会」委員

2012年 3月28日メール 第1回幹事会第2回評議員会開催日時のお知らせ

2012年 4月10日メール 日本学術振興会育志賞受賞候補者推薦依頼

2012年 4月25日メール 世界結晶年支援依頼

2) 連合への対応に関連して, 以下11件のメールでの意見収集, 回議が行われた。

2011年11月13日 日本地球惑星科学連合2012年大会出展申込み

2012年 2月17日 「学術情報発信 緊急説明会」村上副会長出席

2012年 3月15日 第1回科研費成果公開促進費対応臨時委員会大谷会長出席

2012年 3月26日 連合とのMPS誌へロゴ掲載覚書締結

2012年 4月23日-26日 EGUへの連合ブース出展に際しJMPS展示

2012年 5月21日 第2回科研費成果公開促進費対応臨時委員会中村評議員出席

2012年 5月23日 連合社員総会 村上副会長出席

3) 後援, 共催, 協賛報告: 後援(3件), 共催(2件), 協賛(7件)を行った。

4) 以下4件について, メールで会員への連絡を行った。

2011年9月26日メール日本鉱物科学会総会承認事項のお知らせ

2011年9月29日メール 電子版, 冊子版購読希望お伺い

2011年12月5日メール モンゴル資源地質学会からの案内

2012年 2月7日メール 日本鉱物科学会各賞受賞候補者推薦の

お願い

5) その他

(1) 2012年2月2日 事務補佐員管理用パソコンのHDが故障したため修理もするも, データ保存を考え買い替え, その他のパソコンに対してリアルタイムのバックアップシステムと無停電装置を備えた。費用は特別会計年会基金から支出した。

(2) 外部調査依頼: 学術不正に関する外部調査依頼があった。会長, 副会長, 庶務幹事, 渉外幹事により調査中である。その結果は第3回評議員会で報告する見込みである。

7. 行事・年会報告 (大和田行事幹事, 平島LOC委員長)

1) 日本地球惑星科学連合2012年大会を以下の通り実施中である。
日程: 2012年5月20日(日)~25日(金)

会場: 幕張メッセ国際会議場

2) 日本鉱物科学会 2012年年会・総会を以下の通り開催予定である。

日程: 2012年9月19日(水)~21日(金)

会場: 京都大学吉田キャンパス北部構内

内容: スペシャルセッション3件, レギュラーセッション8件

講演申込み期間: 6月17日(日)9時~7月2日(月)17時

(新WEBサイト利用)

3) ポスター発表優秀賞の件: ポスター賞へエントリーした学生正会員は翌日の総会へ必ず参加することをプログラムに掲載するほか, エントリー者に通知する。

4) 年会関係補足事項

平島LOC委員長より会計状況について補足説明があった。

8. Elements報告 (鍵幹事)

Elementsの編集体制及び原稿について以下の報告があった。

1) 編集体制

鍵 裕之(委員長), 井上 徹(副委員長)

宮脇律郎, 宇都宮 聡, 片山郁夫, 橘 省吾, 興野 純, 寺崎英紀(サイエンスボード)

村上 隆, 小山内康人, 大和田正明, 柳澤教雄, 赤坂正秀, 榎並正樹(学会役職)

2年を目処にメンバーを入れ替える予定である。

2) 原稿

年間刷り上がり10ページのSociety Newsを2ヶ月に1回投稿する。内容は, 会長からの挨拶・鉱物科学会の紹介, JMPSの論文タイトル・著者, 学会各賞受賞者の紹介(写真入り), 連合大会国際セッションの紹介, トピックス(モンゴルとの協定締結, 千葉石)である。既に2012年No. 3まで原稿提出済みである。

No1. 学会長による日本鉱物科学会の紹介(モンゴル資源地質学会との協定締結の内容及び写真を含む), JMPSの紹介, JpGU2012の国際セッションの紹介

No2. 奨励賞, 及び応用鉱物科学会賞受賞の紹介記事, JMPS Vol.7(1) February, 2012の目次。

No3. 学会賞, 渡邊萬次郎賞, 論文賞の紹介記事, JMPS Vol.7(2) April, 2012の目次, 千葉石の記事。

次号の原稿締切は6月15日の予定である。トピックスの持ち込みを歓迎する。

9. 会計報告 (中村会計幹事)

日本鉱物科学会平成23年度国際学会・年会基金および一般会計中間報告として以下の3点が行われた。

1) 平成23年度国際学会・年会基金会計中間報告

(平成23年9月1日~平成24年5月15日)

なお, 国際学会・年会基金について, ガイドラインの変更に伴い費目の変更を行ったことが説明された。

2) 平成23年度一般会計中間報告

(平成23年9月1日~平成24年5月15日)

3) 2011年会計決算報告

1 0. 会計監査報告 (伴会計監査委員)

2011年会計決算監査報告の内部監査報告が示され、適切に処理されている旨報告があった。

1 1. 特務幹事 (科研費) (土屋幹事)

平成24年度科研費補助金不採択となったこと、また次年度 (今秋) は科研費の申請はしない予定であるとの報告があった。

1 2. 将来企画委員会報告 (村上委員長)

5月23日(水) 18:30-19:30に将来企画委員会を開催し以下の案件を議論した。

- 1) 法人化の是非: 一般社団法人化については継続審議とする。
- 2) 財政: 今後の支出入の変遷など、特に年会費については様子を見て値上げも含めて検討を行う。
- 3) 国際: Elementsを利用した国際化, AOGSへ学会として参加することの検討など
- 4) アウトリーチ: 年会前の学生へのレクチャーなど (この件に関し, YMO (当学会とは別団体) へのサポートについては要望があれば行うということで承認された。

1 3. 教育普及委員会報告 (黒澤委員長)

前年度からの継続案件となっている, 文部科学省募集の「一家に一枚」ポスター制作企画に応募するため, その原案を現在作成中である旨の報告があった。

1 4. 地球惑星科学連合報告 (大谷幹事)

- 1) 地球惑星科学連合の代議員選挙が実施された。
- 2) 地球惑星科学連合が公益法人になった。
- 3) 地球惑星科学連合ジャーナルの発行の準備が開始された
- 4) 科研費, 研究成果公開促進費の募集要領が大幅に改定された。

1 5. 三鉱連絡会報告 (大和田幹事)

平成24年5月24日昼休み三鉱連絡会を開催し以下の案件を議論した。

- 1) 鉱物科学会, 資源地質学会共通の名簿について:
2013年版は電子媒体へ変更する。
- 2) その他 (主に情報交換): モンゴル資源地質学会とのMOUに基づく今夏のモンゴル巡検について資源地質学会へ連絡する。

1 6. 学術会議の報告 (大谷連携委員)

新連携会員として荒井章司会員, 西山忠男会員が選ばれ, IMA分科会委員になった。

1 7. その他

- 1) 安東選挙管理委員より, 評議員候補者として27名の推薦があった旨報告がなされた。
- 2) 会長・副会長候補者推薦委員会, 永井委員長から, 会長候補として村上隆会員, 副会長候補として小山内康人会員と土山明会員から承諾を得た旨の報告があった。

II. 承認事項

1. 会員承認 (阿部会員幹事)

入会と復活について審議され, 下記の通り承認された。

- 1) 入会の承認 合計15名 (入会申込み書別添え)
以下の正会員4名, 学生正会員11名の入会申込書が回覧され, 入会が承認された。

<一般正会員 8名>

会員氏名 勤務先名

Das Kaushik 広島大学大学院理学研究科

廣川 雅己 大野城市立大野中学校

西川 裕二 スズカファイン株式会社

伊藤 真洋 出光興産株式会社

<学生正会員 11名>

会員氏名 在学先名 学年(申込時) 指導教官名

内川 珠樹 東北大学大学院理学研究科M1 栗林貴弘

長田 直 東北大学大学院理学研究科M1 栗林貴弘

永治 方敬 名古屋大学大学院環境学研究科M1 Wallis Simon

Wanniarachchi Dadayakkarage

島根大学大学院総合理工学研究科M2 赤坂正秀

西山 直毅 大阪大学大学院理学研究科D1 横山 正

西脇 隆文 広島大学大学院理学研究科地M1 安東淳一

石山 沙耶 広島大学理学部B4 安東淳一

山本 貴史 広島大学理学部M1 安東淳一

富田 宣光 愛媛大学大学院理工学研究科M1 皆川鉄雄

宗本 隆志 東京大学大学院理学系研究科D3 村上 隆

半田 玲奈 山形大学大学院理工学研究科M1 加々島慎一

- 2) 復活3名が承認された (一般正会員: 井上厚行, 吉倉紳一, シニア会員: 細野義純)。

2. 平成23年度日本鉱物科学会賞受賞候補者報告と承認 (上原委員長)

報告された吉朝朗会員を平成23年度日本鉱物科学会賞第8回受賞者として承認した。

3. 平成23年度渡邊萬次郎賞受賞候補者報告と承認 (榎並委員長)

報告された床次正安会員を平成23年度渡邊萬次郎賞第28回受賞者として承認した。

4. 平成23年度日本鉱物科学会論文賞受賞候補論文報告と承認 (井上委員長)

報告された以下の2編を受賞論文として承認した。

<平成23年度日本鉱物科学会第11回論文賞受賞論文>

Title: Cleavable olivine in serpentinite mylonites from the Oeyama ophiolite

Authors: Toshio Nozaka and Yuki Ito

Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 106, 36-50, 2011

[受賞者となる会員著者]野坂俊夫

<平成23年度日本鉱物科学会第12回論文賞受賞論文>

Title: Oxidation state of Fe in olivine in a lherzolite xenolith from Oku district, Oki-Dogo Island, Shimane Prefecture, Japan

Authors: Terumi Ejima, Masahide Akasaka and Hiroaki Ohfujii

Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 106, 246-254, 2011

[受賞者となる会員著者] 江島輝美, 赤坂正秀, 大藤弘明

5. 平成23年度日本鉱物科学会研究奨励賞受賞候補者報告と承認 (永井委員長)

報告された浜根大輔会員, 小松一生会員を第9回と第10回の平成23年度日本鉱物科学会研究奨励賞受賞者として承認した。

6. 平成23年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞受賞候補者報告と承認 (佐藤委員長)

報告された坂口 勲会員を平成23年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第5回受賞者として承認した。

7. 平成23年度櫻井賞受賞候補者報告と承認

(加藤委員長代理 宮脇委員)

報告された皆川鉄雄会員を平成23年度日本鉱物科学会櫻井賞第39回受賞者として承認した。

8. 会長・副会長候補者推薦委員会報告と承認（永井委員長）

会長候補として村上隆会員から、副会長候補として小山内康人会員と土山明会員から承諾を得た旨の報告があり承認された。

III. 審議事項

1. 運営細則など内規改正について

(小山内庶務幹事、土山会則・内規検討委員会委員長)

1) Elements 委員会規約の件

昨年12月6日の評議員会メールによる規約の一部変更については承認されたが、運営細則他へ記載して施行していないため、改めて審議承認後規約施行となるとの説明があり、審議後、承認された。

Elements 委員会規約は後記掲載頁を参照。

2) 選挙内規改正の件

昨年の茨城大学での第1回評議員会で提案され、継続審議となっていた「選挙方法の変更の件」について、選挙方法をWEB選挙（一部会員には従来通り郵送投票）とすることについて審議され、承認された。

選挙方法改正が承認された場合は選挙内規を一部改正する必要があり、下記が選挙内規改正案で、会則・内規検討委員会へ諮問中であるとの説明があり、審議後、承認された。

改定「選挙内規」は後記掲載頁参照。

2. 国際会議International Conference on Mineralogy and Museums (M&M)の2016年日本開催立候補の件

(坂野博物館委員会委員長)

日本学術会議IMA分科会からの要請を受けて、国際会議International Conference on Mineralogy and Museums (M&M)の2016年日本開催の可能性についてJAMS内に博物館委員会を設けて検討を行い、今年2月に博物館委員会委員であるフォッサマグナミュージアムの宮島宏会員から、糸魚川市へのM&M8(2016)誘致が提案された。4月に糸魚川市としてM&Mの誘致を正式に進めることが決まったとの連絡を委員会が受け、委員会としては日本への招致を提案する条件がかなり整ったと判断し他との説明があり、以下の具体的な点について審議を行い承認された。財政的な支援については今後検討することとなった。

(1) 主催はM&M糸魚川大会実行委員会（仮称）で、その構成メンバーはJAMS会員（会長、博物館委員会、M&Mに参加経験のある会員など）、糸魚川市教育委員会、糸魚川ジオパーク協議会などとする。

(2) JAMSに連携協力機関の1つとなってもらう。

また、IMA Commission on Museums (CM)委員長Prof. Touretに正式にapplicationを送付することも承認された。今年8月にドイツで開催されるM&M7でM&M8の開催地の議論が行われる予定である。

3. 2013年年会開催地の件（大和田行事幹事）

2013年年会開催予定地は筑波大学であるとの説明があり、審議後、承認された。なお、地球化学会と開催日を重複させる予定である。また、LOCは筑波大、国立科学博物館、産総研の会員らで構成される見込みである。

4. 櫻井賞選考委員会委員長交代の件

(宮脇櫻井賞選考委員会委員)

加藤委員長からの辞任希望により櫻井賞選考委員会委員で協議の結果、次期委員長に松原委員を推挙したいとの説明があり、審議後、承認された。

5. 男女共同参画の提案（小山内庶務幹事）

地球惑星科学連合の男女共同参画委員長の富樫茂子会員から、新体制で日本鉱物科学会から男女共同参画委員推薦するかどうかも含め、男女共同参画活動について検討ほしいとの提案があり、審議の上、委員として土屋範芳会員を推薦することとなった。

6. 運営細則(科研費補助金関連)の見直しおよび科研費特務幹事について提案

過去2回の科研費研究成果公開促進費補助金の不採択状況と、最近の当科研費制度改正状況から、当学会運営細則50条～54条の「科研費補助金の経理管理と執行」が不要になり、これに伴い、科研費特務幹事も不要となることが考えられる。これについて、科研費研究成果公開促進費の申請方法や支援内容が流動的なので、状況をみながら継続審議をさせていただきたいとの提案があり、会則内規検討委員会で検討し結果を第3回評議員会に提出することとなった。

Elements 委員会に関する改正箇所抜粋

Elements

- (イ) 雑誌Elementsの本学会に関連するニュース記事の企画立案と作成
- (ロ) Elementsニュース記事用原稿の依頼、受付、整理および保管
- (ハ) Elements事務局へのニュース記事の送付およびそれに関する事項
- (ニ) Elements事務局との通信・連絡等に関する事項

Elements委員会内規

1. 日本鉱物科学会は、雑誌Elementsのニュース記事に関する企画立案と作成のために、Elements委員会を置く。
2. 本委員会は、1名の委員長と庶務、GKK、JMPS、行事、渉外、広報の各幹事の役職指定委員およびその他の数名の委員で構成する。
 - (1) 委員長には、正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員の中から評議員会の議を経て、会長が委嘱したElements幹事があたる。委員長の任期は2年とし、留任を妨げない。
 - (2) 上記役職指定委員以外の委員は、委員長が指名し、評議員会で承認され、会長がこれを委嘱する。その任期は2年とし、留任を妨げない。
 - (3) 委員長は、委員から1名を副委員長に指名する。
 - (4) 雑誌Elementsの「Society News Editor」は委員長または副委員長から会長が指名する。
 - (5) 雑誌Elementsの「Executive Committee」は委員長または副委員長から会長が指名する。
3. Elements委員会は下記の事項を行う。
 - (1) 雑誌Elementsの各参加学会のニュース記事に関する企画立案を行う。
 - (2) 上記記事を作成、Elements事務局へ送付する。
 - (3) 雑誌Elementsの編集会議に参加する。
 4. 本内規の変更は、日本鉱物科学会の評議員会の承認を必要とする。

付則 平成24年5月24日施行

日本鉱物科学会選挙内規 改正

1. この選挙内規は日本鉱物科学会の会長・副会長および評議員の選挙手続きなどを規定する。
2. 第1項に規定する会長・副会長の選挙は隔年7月、評議員の選挙は毎年7月に行う。その執行・管理は選挙管理委員会が行う。
3. 選挙管理委員会は2名以上の正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員によって構成される。その委員は毎年3月末日までに

評議員会において選出され、会長により委嘱される。委員の任期は選出された日から翌年の定例総会の日までとする。

4. 毎年3月31日現在において会員名簿原簿に記載されている正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員は、次年度の会長・副会長および評議員選挙の被選挙権を有し、改選の年の5月末日現在の正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員は選挙権を有する。
5. 会長・副会長候補者の推薦は次の方法により行われる。
 - (1) 次期会長・副会長候補者の推薦を目的とした会長・副会長候補者推薦委員会を設ける。この委員会は評議員会で選出され、会長により委嘱された5名の正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員によって構成される。委員の任期は選出された日から翌年の定例総会の日までとする。委員長は委員による互選とし、評議員会に報告、会長がこれを委嘱する。
 - (2) 正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員は5名以上により会長・副会長適任者を会長・副会長候補者推薦委員会に推薦することができる。
 - (3) 会長・副会長候補者推薦委員会は、被選挙権を有する正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員の中から、本人の承諾を得て、1名以上を次期会長候補者および2名以上を副会長候補者として選定する。
 - (4) 会長・副会長候補者推薦委員会は、評議員会での承認を経て上記の次期会長・副会長候補者を、改選の年の第2回定例評議員会終了後に選挙管理委員会に書面で届け出なければならない。
6. 評議員候補者は正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員3名以上により、本人の承諾を得て、原則的には当該年度の第2回定例評議員会までに選挙管理委員会に推薦された者とする。
7. 投票はWEB投票と郵送による投票とし、いずれも投票期間は7月中とする。

WEB投票は、指定の投票WEBサイトから電子メールで選挙管理委員会に投票が送信されることをいう。郵送による投票は、会員名簿原簿に電子メールアドレスが未登録の者に限り、毎年7月に配布される投票用紙で郵送投票することをいう。
8. WEB投票の場合、選挙管理委員会は、指定のWEBサイトに会長・副会長および評議員候補者の氏名、所属、研究分野を明記した投票画面を登載する。会員名簿原簿に電子メールアドレスが登録されている者は、画面の説明に従い氏名、住所、電子メールアドレスなど必須情報を入力する。なお、WEB投票は次の条項のすべてを満たしたものを有効と認める。(a) 指定のWEBサイトからの投票。(b) WEB画面での必須入力情報が会員名簿原簿と一致

すること。(c) 会長・副会長に対しては単記、評議員に対しては規定数以内の連記 (d) 投票締め切り日まで投票電子メールが選挙管理委員会に届いたものであること。

9. 郵送による投票の場合は、次の条項のすべてを満たしたものを有効と認める。(a) 郵送された規定の投票用紙。(b) 会長・副会長に対しては単記、評議員に対しては規定数以内の連記、(c) 必要以外の文字や記号などを記入していないこと、(d) 投票締め切り日までに選挙管理委員会が受け取ったものであること。
10. 選挙管理委員会は投票締め切り後、速やかに、選挙管理委員会が委嘱した若干名の正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員の立ち会いの下に開票を行う。
11. 当選者の決定は次の方法による。
 - (1) 会長・副会長は有効得票数の最も多い者を当選者とする。開票の結果、得票数が同じ場合は年長者を当選とする。候補者が1名の場合には、有効投票数の過半数をもって当選とする。
 - (2) 評議員会には、小中高等学校教育職および民間会社からそれぞれ必ず1名以上が含まれるようにする。これらの種別に対応する非改選の評議員がいない場合には、これらの種別毎に有効得票数の最も多い者各1名を選び、残りを一括して有効得票数の多い者の順に必要な数を満たすまで選ぶ。開票の結果、同一得票を生じた場合には、先ず女性、次に年少者を当選者として優先する。
12. 当選者は総会で報告ののち、会誌または適切な方法で会員に通知する。
13. 評議員に欠員を生じた場合には、次年度の定例選挙に含めて補欠選挙を行う。補欠当選者の決定は次の順位による。(a) まず定例選挙の当選者を決める。(b) 次にその補欠数に応じて定例選挙における次点者より順次補欠当選者を決める。補欠当選者の任期は、前任者残りの期間とする。
14. 会長あるいは副会長が評議員と重複した場合には、会長あるいは副会長は自動的に評議員でなくなる。この場合、評議員の補欠はその年度の定例選挙の当選者決定後、次点者より補充する。補欠当選者の任期は前任者の残り期間とする。
15. この選挙内規の改正は評議員会の議決によって行う。

付則 平成19年9月22日施行。
平成20年9月21日改正。
平成23年9月10日改正
平成24年5月24日改正